

エコカーのエンジンは純正相当のオイルでは守れません！

近年、自動車メーカーでは省燃費が至上命題であるため、エンジンのさらなる高効率化が図られています。それに比例してエンジンにかかる負担・負荷が増加し、純正エンジンオイルも低粘度(サラサラ)オイルになり、保護性能を犠牲にして省燃費性重視になっています。定期的な交換だけでは、エンジンを新車に近い状態に維持することは不可能となってきています。

特に、エンジンオイルが燃焼室に入り込み、ガソリンと一緒に燃焼(オイル消費)することで発生するカーボン(ガソリンやオイルの不完全燃焼生成物)によるエンジンへの重大なダメージが、エコカーに搭載されているエンジンに多く発生していることに、当社は懸念を抱いています。



↑ 7年5万キロ走行した軽自動車のピストン ↑
硬質なエンジンオイル由来のカーボンが堆積していました
※当社で5,000kmごとにオイル交換実施(オイル消費現象なし)

【メーカーが保証延長などの措置をとっている事例】

トヨタ

・エスティマ、アルファードなど 2AZエンジン(H17~26年)
→エンジンオイルが燃焼室まで吸い上げられてオイル消費量が増える事例に対する無料修理対応

・ヴィッツ、パッソなど 1NRエンジン(H22~25年)
→燃焼室のピストン上面とシリンダヘッド壁面にカーボンが堆積し、異音が発生する事例に対する無料修理対応

ホンダ

・フィット、インサイト L13Aエンジン(H22~25年)
→オイル劣化により発生したデポジット(カーボン)がオイルリング周辺に滞留し、オイル戻し穴が詰まることでオイルリングのシール不良となり、オイル消費量が増える事例に対する保証期間延長

【エンジンオイルが燃焼してしまうオイル消費の問題点】

①最新エンジンはオイル消費が多い&定期的なオイル交換ではオイル消費を抑制できない

近年のエンジンは燃費を良くする為にピストンリングの張力が弱く、エンジンオイルもサラサラになっていますが、それによって燃焼室にオイルが入り込みやすくなり、オイル消費が多くなっています。

また、エコ運転(ブレーキを踏まずにゆっくり減速する運転)もオイルが燃焼室に吸い上げられるので、きちんとオイル交換していてもオイル消費を防ぐことが不可能となっています。

②オイルが燃えて燃焼室に発生するカーボンは硬く、除去されにくくエンジンにダメージ大

燃焼室内に発生するエンジンオイル由来のカーボンはオイルに含まれる添加剤(清浄剤)が高温で燃焼することで発生するので、燃料由来のカーボン・他の場所に発生するカーボンと比べてとても硬質です。エンジンオイルや燃料でも洗浄されにくいので、どんどん堆積してカーボンによるピストンリング固着やシリンダ摩耗、ノッキングによりエンジンにダメージを与えます。

③オイル消費で発生するカーボンは悪循環の始まり

エンジンオイルが燃えて発生したカーボンは燃焼室を密閉するピストンリングやピストン・シリンダー間の油膜を一定に保つオイルリングの機能を著しく低下させます。それにより、正常時でも発生しているオイル消費がさらに多くなり、どんどん燃焼室内にカーボンが発生し、エンジン損傷の危険性が高くなります。まさに悪循環と言わざるをえません。

当社のお客さまでも10万キロを待たずして、3,000kmで1リットル以上のオイルがなくなる症状が多く見られます。

これらの問題に対して、

カーボンを発生させない予防とカーボンを洗浄する対処が必要です！

カーボンを発生させない予防→ **【WAKO'S フロステージS】 【フェューエル2】**

カーボンを洗浄する対処→ **【フェューエル1】 【エンジンリフレッシュ(燃焼室洗浄)】**

エンジンを良い状態で維持するために、ぜひご検討ください！